



2027年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年7月14日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福
コード番号 9601 URL <https://www.shochiku.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 高橋 敏弘
問合せ先責任者（役職名） 上席執行役員 （氏名） 小山 卓 TEL 03-5550-1699
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年2月期第1四半期の連結業績（2026年3月1日～2026年5月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年2月期第1四半期	24,138	11.5	1,729	58.5	1,651	89.4	△281	—
2026年2月期第1四半期	21,657	11.2	1,091	214.7	872	—	1,507	—

（注）包括利益 2027年2月期第1四半期 △2,092百万円（－％） 2026年2月期第1四半期 3,207百万円（411.6％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年2月期第1四半期	△20.45	—
2026年2月期第1四半期	109.74	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2027年2月期第1四半期	222,559	105,665	47.4	7,679.58
2026年2月期	229,381	108,314	47.2	7,873.26

（参考）自己資本 2027年2月期第1四半期 105,543百万円 2026年2月期 108,207百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年2月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2027年2月期	—	—	—	—	—
2027年2月期（予想）	—	0.00	—	30.00	30.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年2月期の連結業績予想（2026年3月1日～2027年2月28日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	100,000	1.8	3,700	△40.1	3,500	△44.8	2,200	△58.0	160.07

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) 、除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2027年2月期1Q	13,937,857株	2026年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	2027年2月期1Q	194,482株	2026年2月期	194,172株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2027年2月期1Q	13,743,549株	2026年2月期1Q	13,738,830株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(収益認識関係)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結損益計算書に関する注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、個人消費の持ち直しの動きがみられる等、緩やかな回復基調となりました。一方で、先行きについては中東情勢の影響を注視する必要があります、依然として不透明な状況が続いています。

このような状況下、当企業グループはより一層の効率化を図るとともに、積極的な営業活動に努めて参りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高24,138百万円(前年同期比11.5%増)、営業利益1,729百万円(同58.5%増)、経常利益1,651百万円(同89.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純損失は281百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益1,507百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

配給は、邦画2作品、洋画2作品、アニメ3作品、シネマ歌舞伎、METライブビューイング、ODS作品など多様な作品を公開しました。1月に公開した「映画『機動戦士ガンダム 閃光のハサウェイ キルケーの魔女』」が引き続き高稼働したほか、「鬼の花嫁」が好評を博しました。

興行は、邦画では「名探偵コナン ハイウェイの墮天使」が興行収入100億円を超える大ヒットとなり、「ほどなく、お別れです」「映画ドラえもん 新・のび太の海底鬼岩城」等もヒットしました。洋画では、「ザ・スーパーマリオギャラクシー・ムービー」「ブラダを着た悪魔2」等がヒットしました。

テレビ制作は、地上波放送にて連続ドラマ「ムショラン三ツ星」「サレタ側の復讐〜同盟を結んだ妻たち〜」、BS放送にて「弁護士 六角心平 京都殺人事件簿2」を制作しました。

テレビアニメは、「多聞くん今どっち!?!」「正対な君と僕」他3作品を放送しました。

DVD・ブルーレイディスク販売は、「多聞くん今どっち!?!」「TOKYOタクシー」が堅調に推移しました。

配信は、「リターン・トゥ・サイレントヒル」をAmazon Prime Videoにて見放題独占配信を行い、収益に貢献しました。「正対な君と僕」は、ABEMA、Amazon Prime Video等での配信のほか、海外での権利販売も好調でした。

CS放送は、松竹ブロードキャスティング㈱において、CATV局への新規導入営業を強化し、大規模局を含む複数の局で放送が開始するなど、視聴料収入の拡大に努めました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は11,585百万円(前年同期比1.1%増)、セグメント利益は16百万円(同96.0%減)となりました。

(演劇事業)

歌舞伎座は、5月の「團菊祭五月大歌舞伎」が盛況となったほか、「三月大歌舞伎」「四月大歌舞伎」も多彩な演目が話題を呼び、好成績を収めました。

新橋演舞場は、3月の「流白浪燦星 碧翠の麗城」、4月の「坂東玉三郎 特別公演」が好成績を収めました。4月の「木村竜蔵 木村徹二が歌う坂東玉三郎の世界」「坂東玉三郎シネマのひととき」、5月の「OSK日本歌劇団 レビュー 春のおどり」「新派・松竹新喜劇 合同 喜劇公演」も好評を博しました。

大阪松竹座は、5月の「大阪松竹座さよなら公演 御名残五月大歌舞伎」公演にて、惜しまれつつ興行を終了し、閉館いたしました。3月の「ほんまおおきに大阪松竹座 WE are 松竹座男子。今まで永らくお世話になりました。関ジュの頃、和室の楽屋で向き合った日々。そんな青春の場所でSUPER Aえ!卒業式。」、4月の「大阪松竹座さよなら公演 御名残四月大歌舞伎」も大変盛況となりました。

南座は、3月の「花形歌舞伎 特別公演」が好成績を収めました。4月の「OSK日本歌劇団 レビュー 春のおどり」、5月の「舟木一夫シアターコンサート in 南座」「南座 歌舞伎鑑賞教室」も好評を博しました。

その他の公演は、5月の日生劇場にて「ハムレット」を上演し、好成績を収めました。

巡業は、「第三十九回 四国こんびら歌舞伎大芝居」が好評を博しました。

シネマ歌舞伎は、月イチ歌舞伎にて4月「曾根崎心中」、5月「京鹿子娘二人道成寺」を上映し、高い興行収入を上げました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は8,516百万円(前年同期比42.0%増)、セグメント利益は1,351百万円(前年同期はセグメント利益74百万円)となりました。

(不動産事業)

不動産賃貸事業は、テナントリレーションの深化に努め高い稼働率を維持し、強固な収益基盤を堅持しました。主要物件の歌舞伎座タワー等では、戦略的なリーシング展開や計画修繕、適正な賃料改定を推進し、収益力の最大化を図りました。

まちづくり事業は、東銀座エリアマネジメント活動を通じエリア価値の向上に邁進しました。当四半期は歌舞伎座周辺の木挽町通りにて、地域初となるプロジェクションマッピングの投影やマルシェ、ワークショップ等のイベントを開催しました。また、鎌倉市大船地区において、「なりわい暮らし」を提案する商住一体型複合施設「kuguru(くぐる)」がグランドオープン致しました。賛同企業が拡大する中、継続的な賑わい創出によりブランド力を高め、中長期的な資産価値底上げに注力しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,612百万円（前年同期比1.4%減）、セグメント利益は1,387百万円（同2.9%減）となりました。

（その他）

劇場プログラムおよびキャラクター商品は、「鬼の花嫁」「最終楽章 響け！ユーフォニアム」「機動警察パトレイバー EYZY」等の作品を中心に収益に貢献しました。

物販イベント事業は、2月に実施したコンサート「劇場版 忍たま乱太郎 ドクタケ忍者隊最強の軍師 シネマコンサート」の物販が引き続き好調でした。

ゲーム事業においては、販売促進のため、日本最大級のインディーゲームの展示会「BitSummit PUNCH」に出展しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は423百万円（前年同期比21.8%減）、セグメント損失は76百万円（前年同期はセグメント損失3百万円）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ6,822百万円減少し、222,559百万円となりました。これは主に現金及び預金が減少したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ4,173百万円減少し、116,893百万円となりました。これは主に借入金、固定負債のその他が減少したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ2,648百万円減少し、105,665百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が減少したこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年2月期の連結業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点においては2026年4月14日付「2026年2月期 決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,694	14,468
受取手形、売掛金及び契約資産	11,974	11,581
商品及び製品	1,570	1,302
仕掛品	9,725	11,472
原材料及び貯蔵品	118	122
その他	3,044	2,938
貸倒引当金	△16	△5
流動資産合計	45,111	41,879
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	35,621	32,997
設備（純額）	13,869	13,552
土地	52,471	52,471
その他（純額）	4,839	4,620
有形固定資産合計	106,801	103,641
無形固定資産		
その他	1,873	1,943
無形固定資産合計	1,873	1,943
投資その他の資産		
投資有価証券	57,798	57,343
退職給付に係る資産	576	590
その他	17,323	17,249
貸倒引当金	△102	△89
投資その他の資産合計	75,595	75,094
固定資産合計	184,270	180,679
資産合計	229,381	222,559

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,600	9,310
短期借入金	3,700	3,800
1年内返済予定の長期借入金	7,539	6,539
未払法人税等	1,018	554
賞与引当金	633	487
その他	11,921	10,876
流動負債合計	33,413	31,569
固定負債		
長期借入金	53,459	52,907
退職給付に係る負債	1,994	1,986
資産除去債務	5,127	5,153
その他	27,073	25,276
固定負債合計	87,654	85,324
負債合計	121,067	116,893
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,210	30,210
利益剰余金	19,921	19,088
自己株式	△1,415	△1,419
株主資本合計	81,735	80,897
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,667	24,837
為替換算調整勘定	△63	△63
退職給付に係る調整累計額	△130	△128
その他の包括利益累計額合計	26,472	24,645
非支配株主持分	106	122
純資産合計	108,314	105,665
負債純資産合計	229,381	222,559

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年3月1日 至 2026年5月31日)
売上高	21,657	24,138
売上原価	12,058	13,625
売上総利益	9,599	10,512
販売費及び一般管理費	8,507	8,783
営業利益	1,091	1,729
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	80	74
持分法による投資利益	27	41
その他	56	50
営業外収益合計	168	169
営業外費用		
支払利息	219	229
借入手数料	14	14
支払補償費	127	—
その他	25	3
営業外費用合計	387	247
経常利益	872	1,651
特別利益		
事業撤退損失引当金戻入益	※1 560	—
投資有価証券売却益	14	—
特別利益合計	574	—
特別損失		
固定資産除却損	5	7
減損損失	—	※2 2,335
災害による損失	—	36
特別損失合計	5	2,379
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,441	△727
法人税、住民税及び事業税	257	278
法人税等調整額	△319	△741
法人税等合計	△62	△462
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,503	△265
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	15
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,507	△281

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年3月1日 至 2026年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,503	△265
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,712	△1,829
退職給付に係る調整額	△9	2
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	1,704	△1,827
四半期包括利益	3,207	△2,092
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,212	△2,108
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	15

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間(自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高							
外部顧客への売上高	11,456	5,996	3,662	541	21,657	—	21,657
セグメント間の内部売上高又は振替高	28	53	479	29	590	△590	—
計	11,484	6,049	4,142	571	22,247	△590	21,657
セグメント利益又は損失(△)	416	74	1,428	△3	1,916	△825	1,091

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、配信コンテンツの企画・制作、新規事業開発等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△825百万円には、セグメント間取引消去△0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△824百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2026年3月1日 至 2026年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高							
外部顧客への売上高	11,585	8,516	3,612	423	24,138	—	24,138
セグメント間の内部売上高又は振替高	47	49	439	20	557	△557	—
計	11,632	8,566	4,052	444	24,695	△557	24,138
セグメント利益又は損失(△)	16	1,351	1,387	△76	2,678	△949	1,729

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、ゲームソフトウェアの企画・開発・制作・販売、新規事業開発等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△949百万円には、セグメント間取引消去8百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△957百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「演劇事業」及び「不動産事業」において、解体工事着手の決議をしたことに伴い減損の兆候が認められたことから、減損判定をした結果、当該資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失としております。なお、当第1四半期連結累計期間の減損損失の計上額は、「演劇事業」1,864百万円、「不動産事業」470百万円であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間（自 2025年3月1日 至 2025年5月31日）

(単位：百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計
主要な財又はサービス					
劇場運営	7,157	3,901	—	—	11,058
映画配給	1,333	4	—	—	1,338
映像版權許諾	956	10	—	4	971
有料放送	747	—	—	—	747
その他	1,261	2,023	613	537	4,434
顧客との契約から生じる収益	11,456	5,939	613	541	18,550
その他の収益 (注) 2	—	56	3,049	—	3,106
外部顧客への売上高	11,456	5,996	3,662	541	21,657

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、配信コンテンツの企画・制作、新規事業開発等であります。
2. その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）に基づく所有不動産の賃貸収入等が含まれております。

当第1四半期連結累計期間（自 2026年3月1日 至 2026年5月31日）

(単位：百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計
主要な財又はサービス					
劇場運営	7,985	6,490	—	—	14,475
映画配給	622	44	—	—	666
映像版權許諾	1,158	8	—	46	1,213
有料放送	708	—	—	—	708
その他	1,110	1,925	520	377	3,933
顧客との契約から生じる収益	11,585	8,468	520	423	20,997
その他の収益 (注) 2	—	48	3,092	—	3,140
外部顧客への売上高	11,585	8,516	3,612	423	24,138

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、ゲームソフトウェアの企画・開発・制作・販売、新規事業開発等であります。
2. その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）に基づく所有不動産の賃貸収入等が含まれております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結損益計算書に関する注記）

※１．事業撤退損失引当金戻入益

前第1四半期連結累計期間（自 2025年3月1日 至 2025年5月31日）

当社は2025年2月27日にBS放送事業からの撤退を決議し、2025年3月1日以降BS松竹東急株式会社で発生する撤退費用等を事業撤退損失引当金として計上しておりましたが、JCOM株式会社と株式譲渡契約を締結した結果、一部の事業撤退費用が確定したことから、確定額との差額を事業撤退損失引当金戻入益として計上しております。

当第1四半期連結累計期間（自 2026年3月1日 至 2026年5月31日）

該当事項はありません。

※２．減損損失

前第1四半期連結累計期間（自 2025年3月1日 至 2025年5月31日）

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自 2026年3月1日 至 2026年5月31日）

当第1四半期連結累計期間において、当企業グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

①減損損失を認識した資産

場所	用途	種類
大阪府大阪市	劇場施設、賃貸不動産	建物及び構築物等

②減損損失の認識に至った経緯

当社が運営する劇場施設及び賃貸不動産について、当第1四半期連結累計期間において、解体工事着手の決議をしたことに伴い、保有する劇場施設及び賃貸不動産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

③減損した固定資産の金額及び固定資産の種類別の内訳

種類	減損損失
建物及び構築物	2,114百万円
設備	76百万円
その他	145百万円

④グルーピングの方法

当企業グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、各社の管理会計上の区分を基準に、原則として劇場及び賃貸不動産は個々の物件単位、その他は収益計上区分を勘案し、資産のグルーピングを行っております。

⑤回収可能価額の算定方法

回収可能価額は正味売却価額により算定しております。正味売却価額については、対象資産の処分可能性を考慮し、実質的に売却又は転用が不可能な資産は零とし、売却又は転用が可能な資産は売却可能価額にて評価しております。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自 2025年3月1日 至 2025年5月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2026年3月1日 至 2026年5月31日）
減価償却費	1,204百万円	1,202百万円